



2023年2月10日

各位

上場会社名 五洋建設株式会社
 代表者名 代表取締役社長 清水 琢三
 (コード: 1893 東証プライム・名証プレミア)
 問い合わせ先 経営企画部長 遠藤 淳一
 (TEL. 03-3817-7545)

工事損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、2023年3月期第3四半期連結累計期間(2022年4月1日~2022年12月31日)において、手持工事の採算見直しに伴う工事損失を計上するとともに、2022年11月10日に公表した2023年3月期(2022年4月1日~2023年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 工事損失の内容

手持工事の進捗状況を精査した結果、海外工事において約160億円の工事損失を計上しました。

シンガポールの大型土木工事において、現地地盤条件の不一致に加え新型コロナウイルス感染症の影響等により前期に約60億円の工事損失を計上しましたが、その後の資材価格等の上昇や施工加速のための費用増加を精査し、さらに今期工事損失引当金繰入額を含む約50億円の工事損失を追加計上しました。また、新たに香港の土木及び建築工事、有償及び無償のODA工事において、いずれも資機材価格や燃料費等の高騰に加え、個別工事の施工リスク(技術的課題、資機材調達、下請契約等のリスク)や為替リスクの顕在化により合わせて工事損失引当金繰入額を含む約110億円の工事損失を計上しました。

2. 2023年3月期業績予想の修正(2022年4月1日~2023年3月31日)

○連結業績予想

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	485,000	22,500	21,500	14,500	50円85銭
今回修正予想(B)	485,000	4,500	2,000	500	1円75銭
増減額(B-A)	—	△18,000	△19,500	△14,000	
増減率(%)	—	△80.0%	△90.7%	△96.6%	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	458,231	15,939	15,659	10,753	37円72銭

○個別業績予想

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	450,500	20,500	19,500	13,000	45円59銭
今回修正予想(B)	450,500	3,000	1,000	0	0円00銭
増減額(B-A)	—	△17,500	△18,500	△13,000	
増減率(%)	—	△85.4%	△94.9%	△100.0%	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	428,991	13,324	13,179	9,129	32円03銭

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって記載の見通しとは異なる可能性があります。

3. 業績予想修正の理由

(1) 個別業績予想

売上高は前回発表予想と変わりませんが、営業利益は前回予想比 175 億円減少の 30 億円（前回予想比 85.4%減、前期比 77.5%減）となる見込みです。

1. に記載の通り、海外において複数の工事で合わせて約 160 億円の工事損失を計上したことが主な要因です。また、国内土木、国内建築はともに完成工事総利益率が目標をやや下回ることに伴い、完成工事総利益はそれぞれ前回予想から 5 億円、10 億円の減少となる見込みです。

さらに、為替ヘッジできない一部のマイナー通貨が円に対して下落した影響等により、営業外費用として 8 億円の為替損の増加が見込まれます。

以上の要因により、経常利益は前回予想比 185 億円減少の 10 億円（前回予想比 94.9%減、前期比 92.4%減）、当期純利益は前回予想比 130 億円減少の 0 億円（前回予想比、前期比ともに 100.0%減）となる見込みです。

前期に続き海外工事において多額の損失を計上したことを重く受け止め、入札段階でフロントローディングの取組み徹底によるあらゆるリスクの想定と対応、適正な工事原価の把握、ならびに工事段階では最適な現場組織の構築、全社的サポート体制の構築に努めるとともに、シンガポールに本社拠点を置く国際部門によるタイムリーな管理・指導を徹底してまいります。

(2) 連結業績予想

主に個別業績予想の修正に伴い、営業利益 45 億円（前回予想比 80.0%減、前期比 71.8%減）、経常利益 20 億円（前回予想比 90.7%減、前期比 87.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益 5 億円（前回予想比 96.6%減、前期比 95.4%減）となる見込みです。

4. 来期の業績見通し

来期（2024 年 3 月期）は、国内土木、国内建築、海外で、複数の大型工事の着工ならびに手持工事の進捗が見込まれます。これに伴い、連結売上高は 6,000 億円超と過去最高となる見込みです。利益面でも、今期並みの国内土木、国内建築の完成工事総利益率を想定すると、親会社株主に帰属する当期純利益は約 220 億円に回復する見込みです。なお、来期（2024 年 3 月期）の業績予想につきましては、2023 年 3 月期の決算発表時（2023 年 5 月）に公表する予定です。

5. 期末配当について

当社は、連結総還元性向 40%（うち、配当性向 30%以上）を目標として、「資本の充実、設備投資など成長投資を行うとともに、株主への利益還元を継続的かつ安定的に行うこと」を基本方針としておりますが、当期の配当につきましては、業績予想を下方修正したものの、2022 年 5 月 13 日の発表通り、1 株当たり 24 円の配当を予定しております。なお、自社株買いにつきましては今期は見送らせていただきます。

以 上

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって記載の見通しとは異なる可能性があります。